

副産物として生じた奇形建築のコンバージョン

ー見立て手法の再構成と応用方法の発見を通してー

坂牛研究室：4113612 岡崎 絢





…見立てというのは、遠い空や月のような遙かな美しいもので身近な道具や人の動静を美化する方法である。
それゆえ、それはまた逆に、遠く離れた美しいものを、身近なもので考えてみることもある。
それはひとつの動的な遠近法なのである。したがって、見立てとは、身近なものを遠い輝きに透かして見ることである。…

01_研究目的_「見立て」の可能性



．．．．．



21 世紀の建築を考えていく上で、**既に存在する形や状況をどう活かすか**ということが重要なテーマであると考え

る。そのテーマを建築化するエッセンスとして、日本古来の「**見立て**」という美学を取り上げる。

見立てとは、ある対象を本来の姿ではなく、別のものとして見ることであり、

その本質は、**既存の物を距離を置いて見ることで我々の認識を揺るがし覆すこと**であり、**日本的な視線の再構築法**である。

かつて日本に茶道の道具が存在しなかったとき、千利休は、自然物や日用品・唐物の器を手数少なく美化することで道具に代用していた。存在しない茶道の道具を創造したのは、ものの見方を再構築し、不完全な既存の物を利用可能なものとして見出す眼であった。つまり見立ては、**既にあるものへの見方を変える可能性**を持っている。そこで本論では、見立てを建築手法に投与する可能性を見出し、慣れ親しんだ建築の価値を再発見しプロジェクトとして提案する。

02_見立ての文化的側面



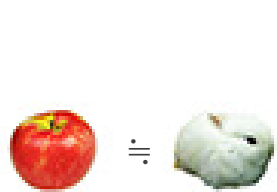
見立ては古くから日本の芸術各分野に、現在も生活の随所に浸透している美意識である。一方、多様な芸術分野において用いられてきたため、過去と現代での用法に差異がある。この性質は、日本文化の特徴を基に言及されている。見立てには、古くから伝わる日本の美学であることも踏まえ、蕉風俳諧理念の一つである《不易流行》や日本の神祭りに類似しているところがあり、

i) 普遍的な《構造の部分》

ii) 新しい要素を付け加えていく《流行の部分》

という二つの側面があるという。したがって、《流行の部分》にあたる要素を現代の中で整理し、再構成することで新たな手法として提示しうると考える。

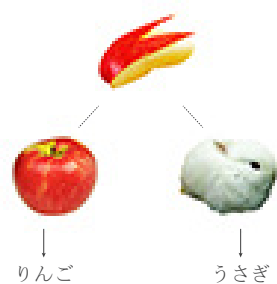
03_見立ての《構造の部分》



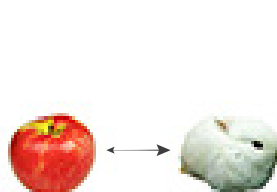
類似性



置換性



共同性



意外性

見立てを成立させる《構造の部分》について、文化人類学・美学・日本庭園史・西洋美術史など各専門家による言説を基に定義するものとし、《類似性》、《置換性》、《共同性》、《意外性》の4項を挙げる。

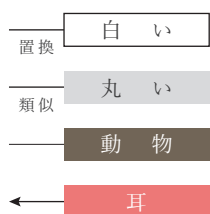
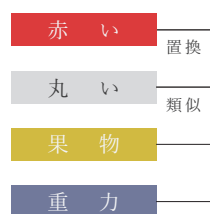
類似性：ある共通項があること。似ていること。

置換性：うつしかえ・すりかえがなされること。

共同性：創作者・鑑賞者間の相互理解が成立すること。

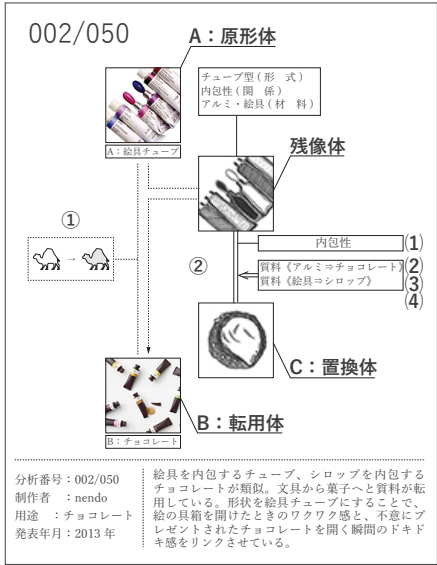
意外性：うつしかえ・すりかえにより元のものとのギャップが生じること。

04_分解による観察_《流行の部分》



見立ての《流行の部分》にあたるものの観察・考察を行っていく。ここでいう《流行の部分》というのは、各芸術分野やデザインにおいて用いられている、新しいものの見方、視点の幅を広げるためのエッセンスとなりうるものとしての《流行》を意味する。形式のみならず質料などの視点から見立てを考察するために物質を構成する要素を形式・質料等の単位に分解して観察する。それによって**見立ての発見及び手法の可能性を浮き彫りにする**。

分解とは、全体をいくつかの区切りに分けること。物質における分解とはつまり、「見立てられるもの」を全体像としたとき、その像を構成する形式・質料など、その像を構成する要素に分解していくことである。



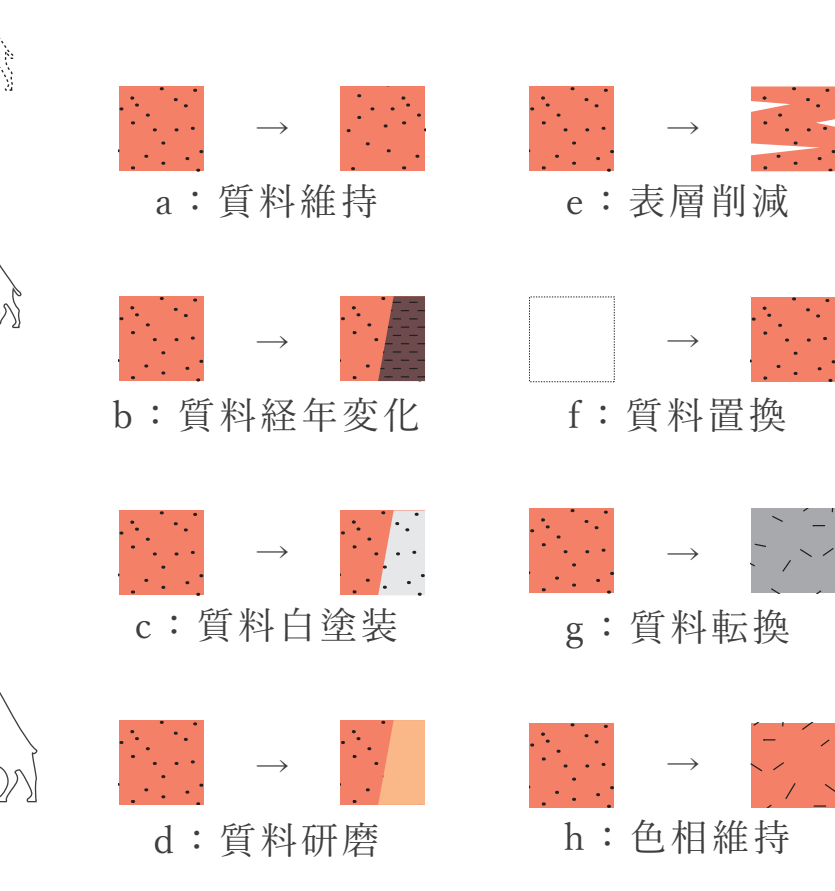
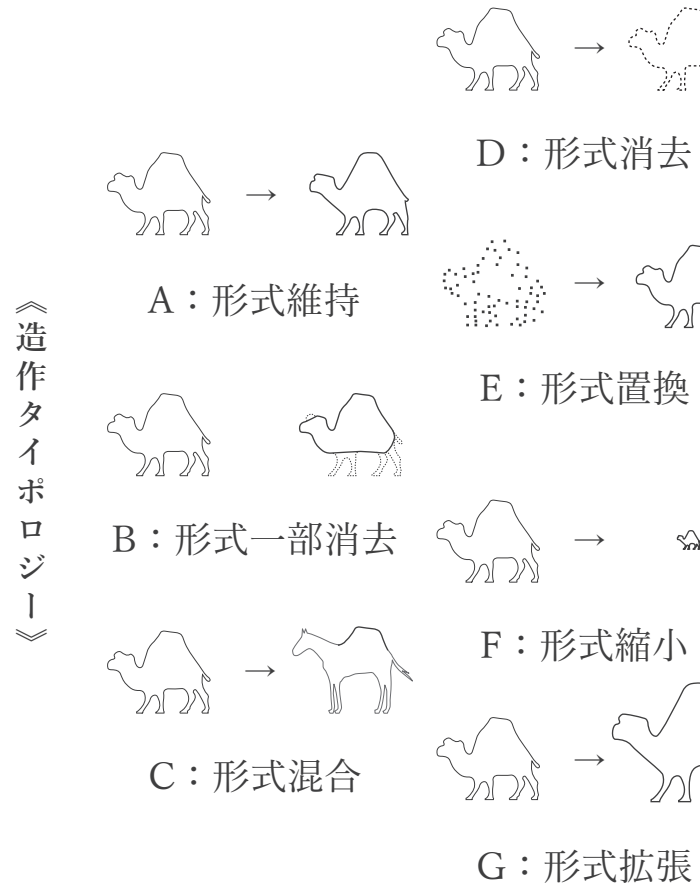
【図1】見立てプロセスシート



【図2】造作タイポロジー



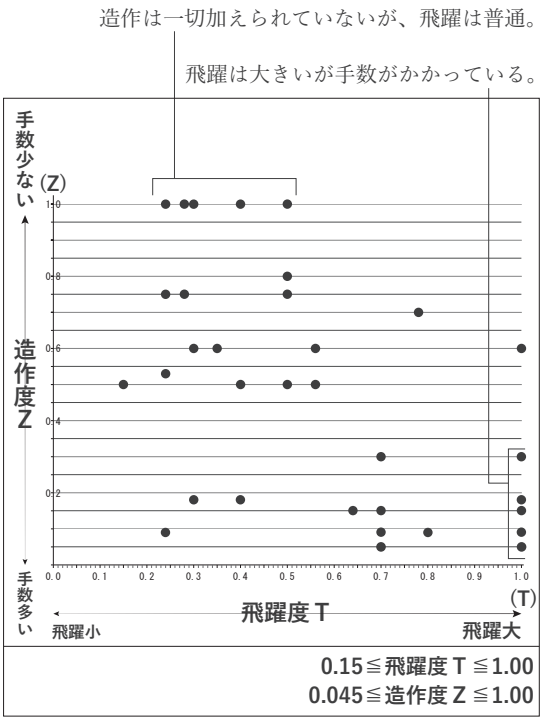
【図3】①手数の少なさ（左）/②飛躍の度合い（右）



《造作組み合わせと効果》

A × a	リバーシブル	C × a	誘発性	C × g	現象の コラージュ	F × g	記号の 縮小化
	小人目線		原料回帰		共存		縮小と擬態
	間に合わせ		寄生 による 擬態	A × h	重量の擬態	E × h	実体化
A × b	経年変化 による 意味剥離	B × d	研磨 による 意味剥離		体験重ね	F × h	縮小複製
B × a	擬態と 間に合わせ	A × e	印刻 による 擬態	E × f	駄洒落	G × h	引き伸ばし
	擬態	D × a	質料美化	F × g	現象の 手繰り寄せ	造作組 み合わせ	方法的 効果的 特徴
A × c	白化 による 意味剥離	A × g	体験重ね		風景の 手繰り寄せ		
B × b	経年変化 による 意味剥離	A × f	実体化		手繰り寄せ		

《造作度Z・飛躍度T―数値比較》



07_ペットアーキテクチャーにみる奇形建築



塚本由晴(1965-) は、都市にばらまかれた建築ストックとして《ペットアーキテクチャー》(以下P.A.)なる概念を定義した。

- 【ペットアーキテクチャー】
- ・犬小屋以上《兎小屋》未満（東京の住宅の小ささを揶揄した言い方）の小さな建物。
 - ・普通サイズの建築ならばとるに足らない看板、空調室外機などが相対的に重要な構成要素になる。
 - ・隙間や細分化された小さな土地など、都市開発に伴って生じた副産物的な敷地に現れる。

P.A. にみられるように、都市開発の副産物的敷地にある建築は奇形な様相を持つ。しかしそれゆえに、**その場所性を端的に示す建築物として貴重**であり、**都市の風景の一部**を成しているものと見立てられる。

08_コンバージョン+見立て+副産物的奇形建築

…P.A.は、すでに数多く、しかも都市の特異点にばらまかれています。低予算で気楽である。そういう性格を利用して、来るべき都市空間を方向付け、都市の隙間をリサイクルする道具としてペットアーキテクチャーを利用することができるのではないか。

…塚本由晴

塚本氏の言説から、P.A.にみられるような**奇形建築を都市の建築ストックとみなしコンバージョンすることへの価値**に着目した。しかし、奇形故に誘発される利用方法を見出すのは容易ではないと考えた。そこで、見立てをコンバージョン手法に用いることで、一見狭小性以外手がかりがなさそうに見える奇形建築への視線を再構築することを試みる。

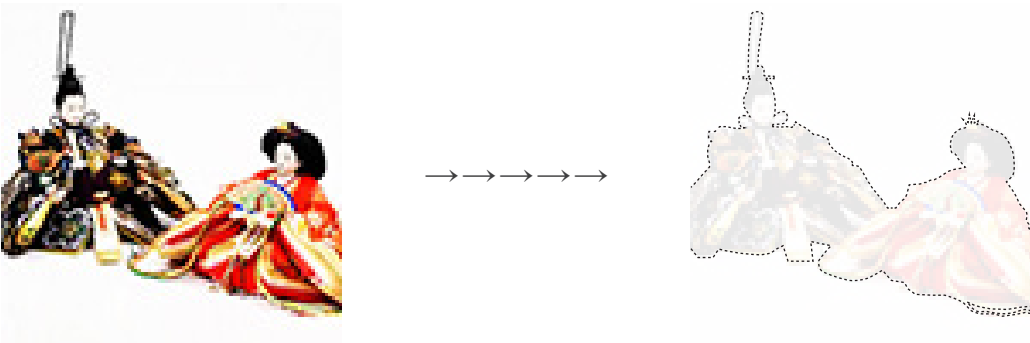


- 見立てとコンバージョンの共通点：
- (i)あるもの(ある機能の建築)を別のもの(別機能の建築)になぞらえて表現する点
 - (ii)再構築によってギャップをつくりだす点
- 見立ての特性：
- (a)類似性を見出すことで、奇形建築を既知の物に引き寄せることが可能な点
 - (b)既存のものへの視線の再構築が、手数少なく行える点

= 副産物的なP.A.をリサイクルする手法

として期待できると考えた。よってプロジェクトでは、P.A.のような奇形建築のストック活用・都市の記憶の保存・存在価値の向上を目的に、**見立てをコンバージョン手法へ導入すること**を試みる。

09_非常設性ー日本と西洋の芸術観の差異

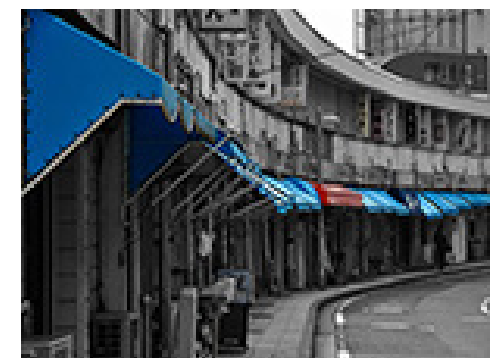
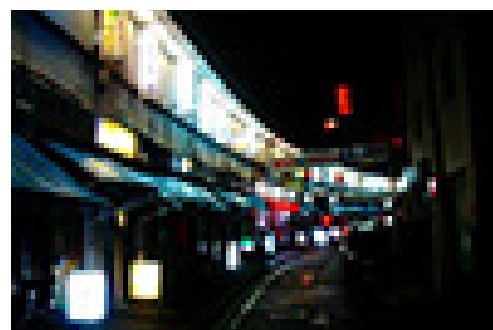


西洋のコンバージョンに日本の再構築的なものの見方を導入するわけだが、見立てをはじめ日本の美学を支えてきたものとして、**その状態が永続的でないこと、しまうということが注目されている。**

この《しまうこと＝非常設性》を更にコンバージョンに導入することで、元々存在する機能を切り落とすのではなく、既存機能と転用後の機能が同居しながらも、時間軸によって建築の在り方が移り変わるコンバージョンの方法を編み出すことを提案する。



配置図 1:2000



10_ 対象建築 _ 都橋商店街

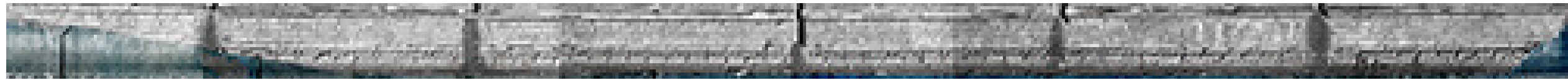
設計対象は、野毛の都橋商店街とする。対象は1964年東京オリンピック開催に伴い野毛本通りの街並みを美しくし、バラック建てのリバーサイド屋台を収容するため設計された。大岡川の緩やかなカーブに沿うよう護岸の上に建つ。

奥行き約3.6m、長さ約100m、長屋風建物に約6畳の飲み屋が30店舗ほど並んだ二階建ての構成である。建物の背面が存在しないので、看板・室外機のみならず客用の入口、勝手口が連立し、一面に大量のドアが並ぶ。

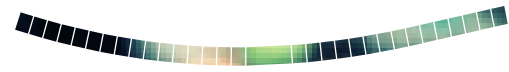
夜間のみ居酒屋街として機能している現状に対し、昼間は一切機能していないため界限はシャッター街のようで殺風景である。

そこで昼は貸出し可能な機能、夜は現状通り居酒屋街として現象するものにコンバージョンすることを本設計の目的とし、都市の記憶の保存・存在価値の向上を試みる。





荷下ろし場の跡



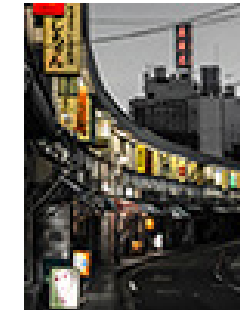
狭長性



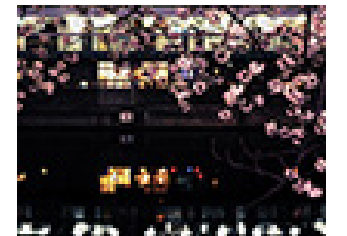
鉄冊子の窓 _ 川面



2階湾曲渡り廊下



看板色々



桜並木



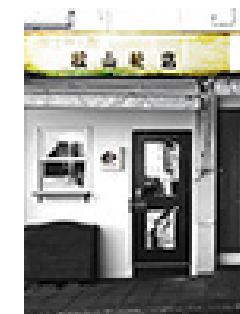
入口がいっぱい



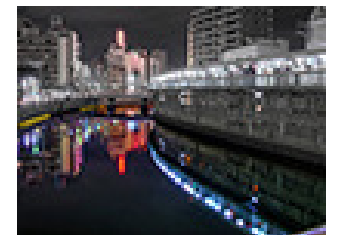
鉄冊子の窓 _ 道路面



カウンター



帯看板



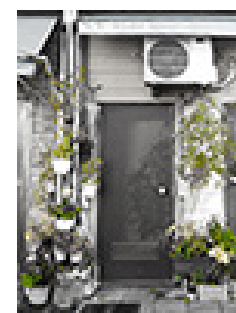
大岡川



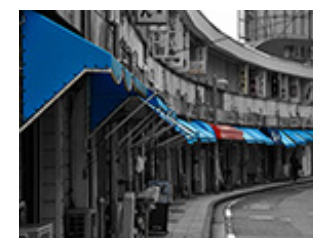
一家に一台、室外機



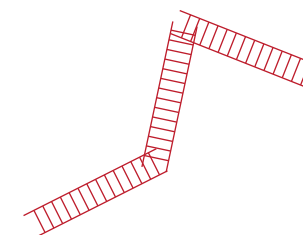
水道管



植木鉢



オーニング



はしご制度

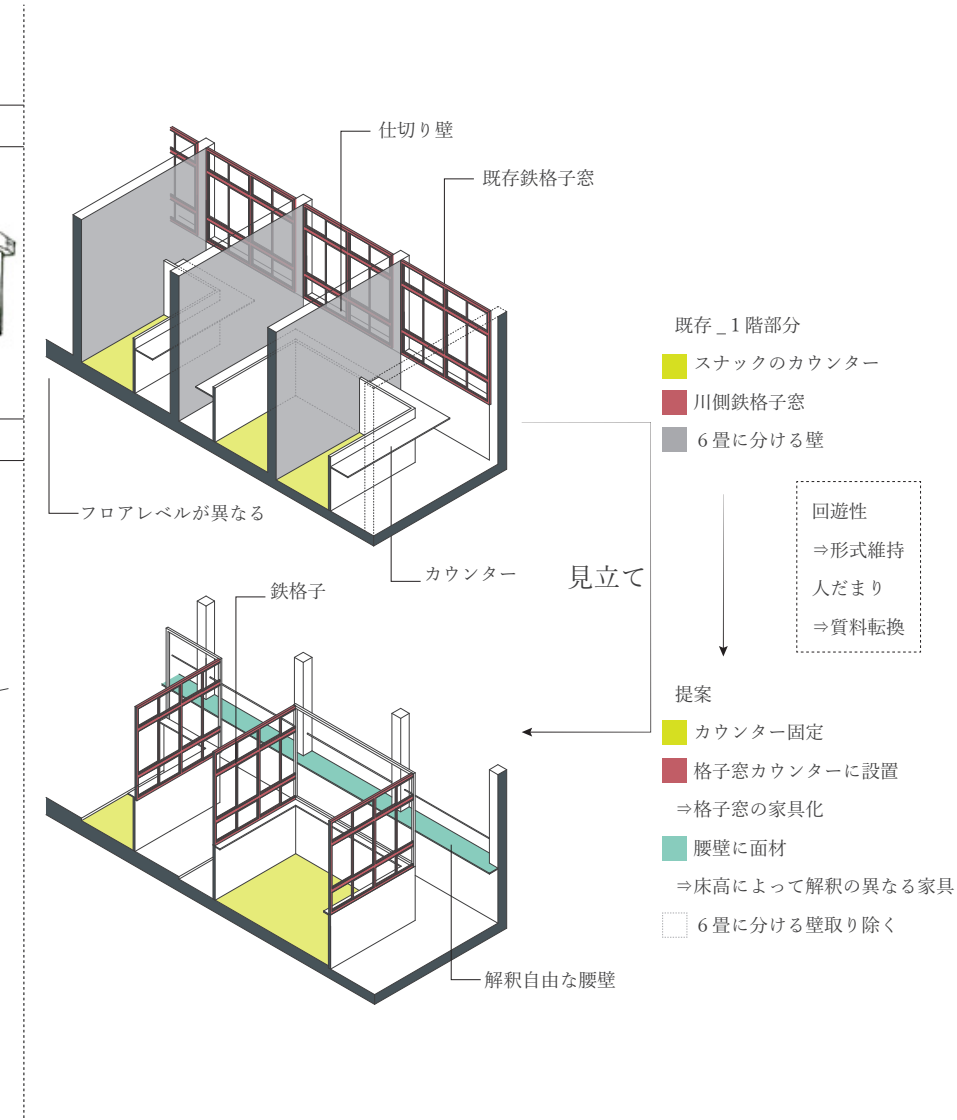
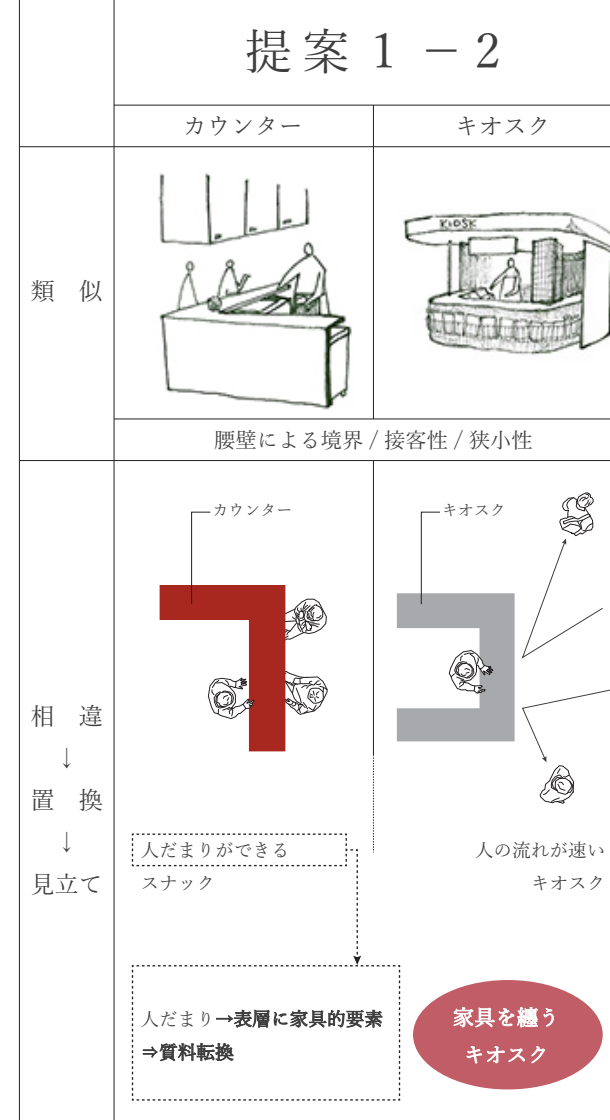
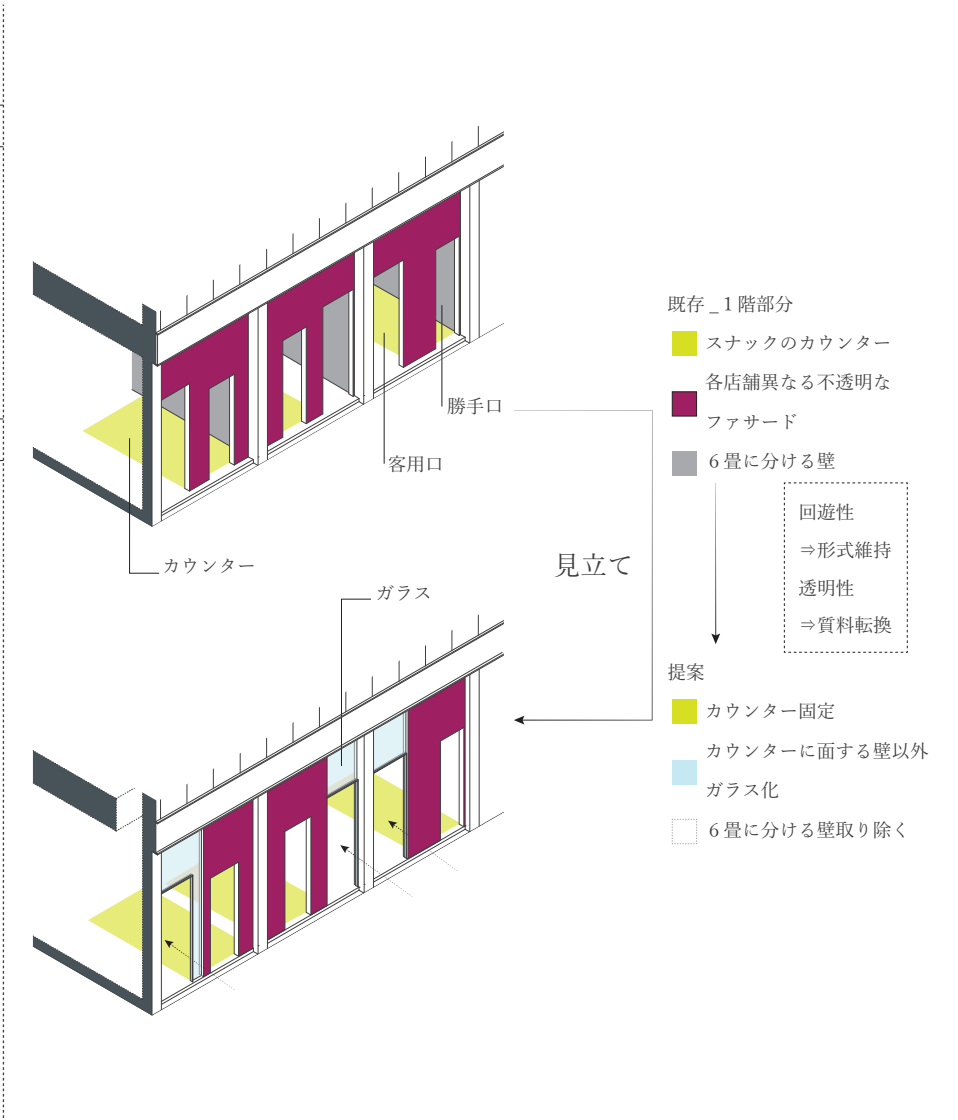
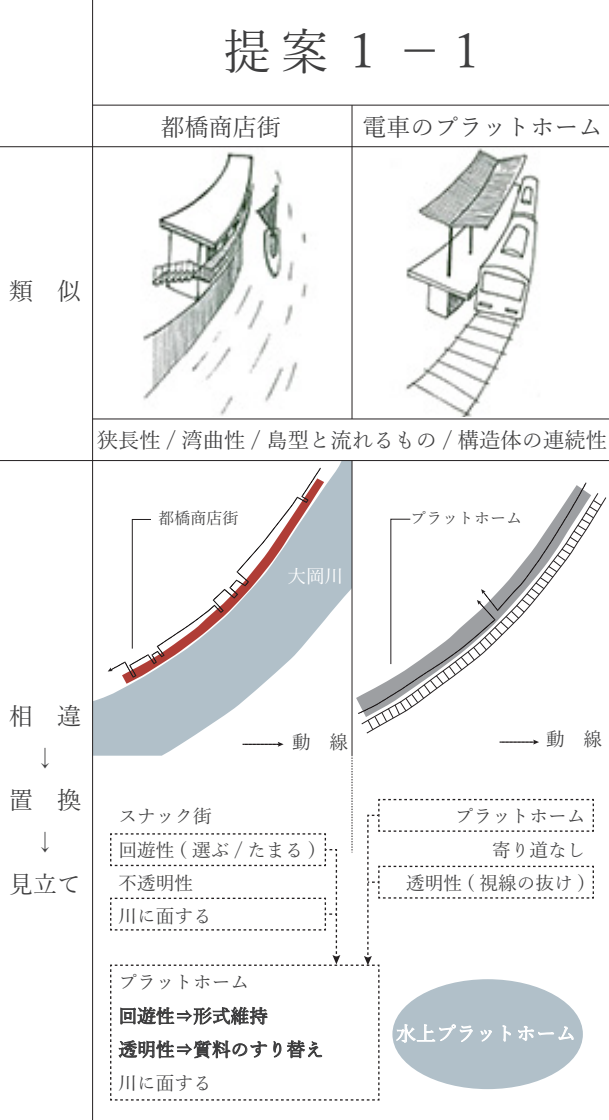


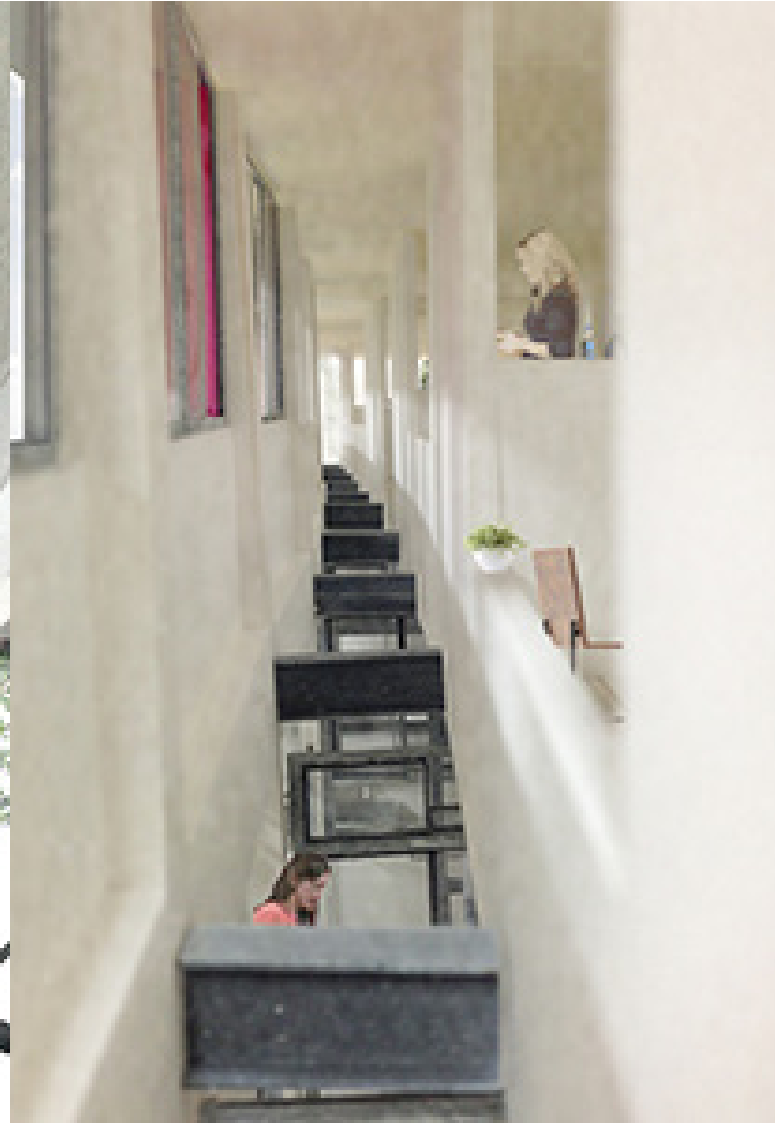
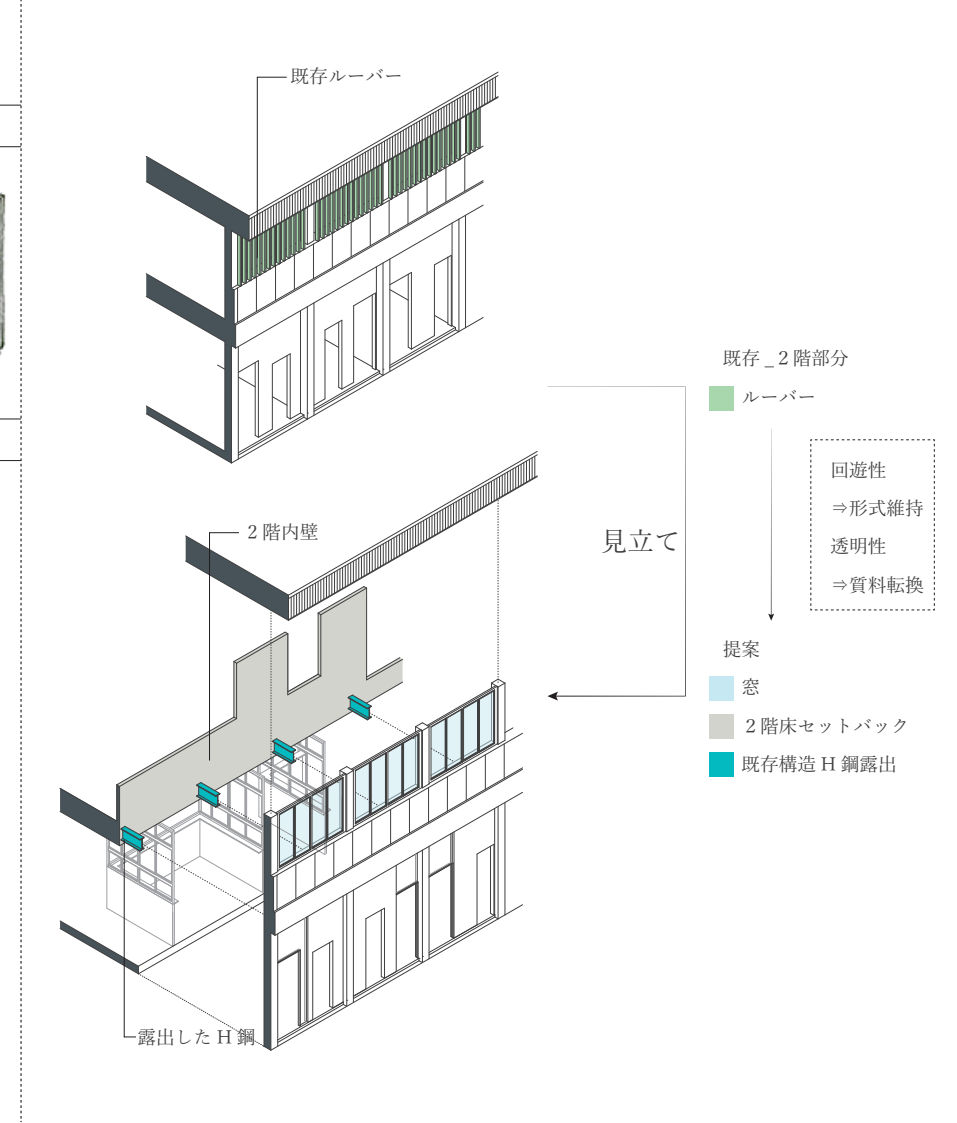
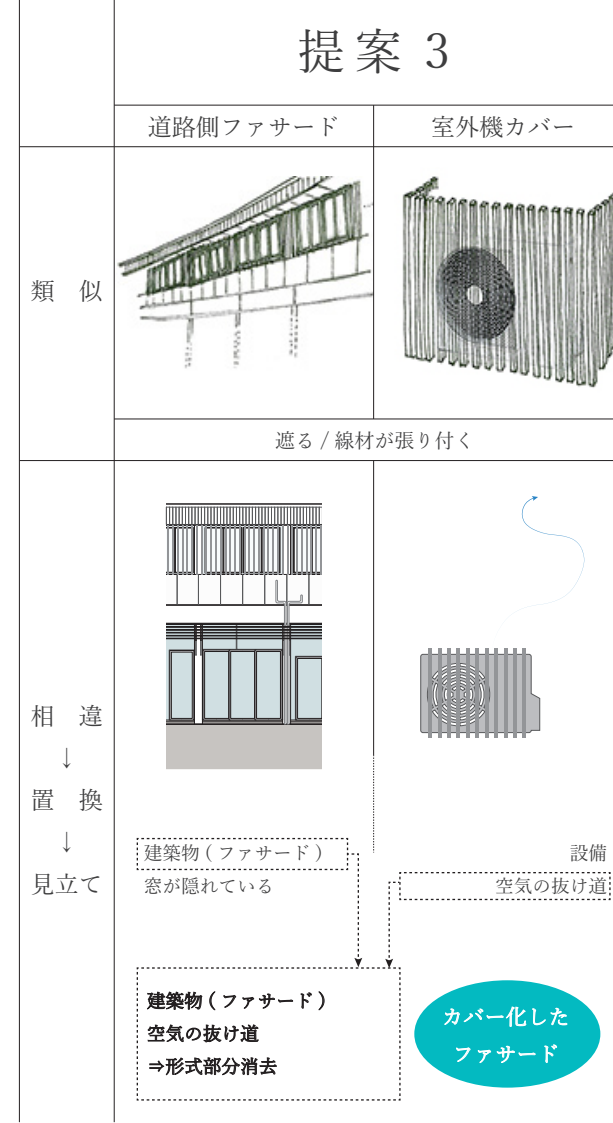
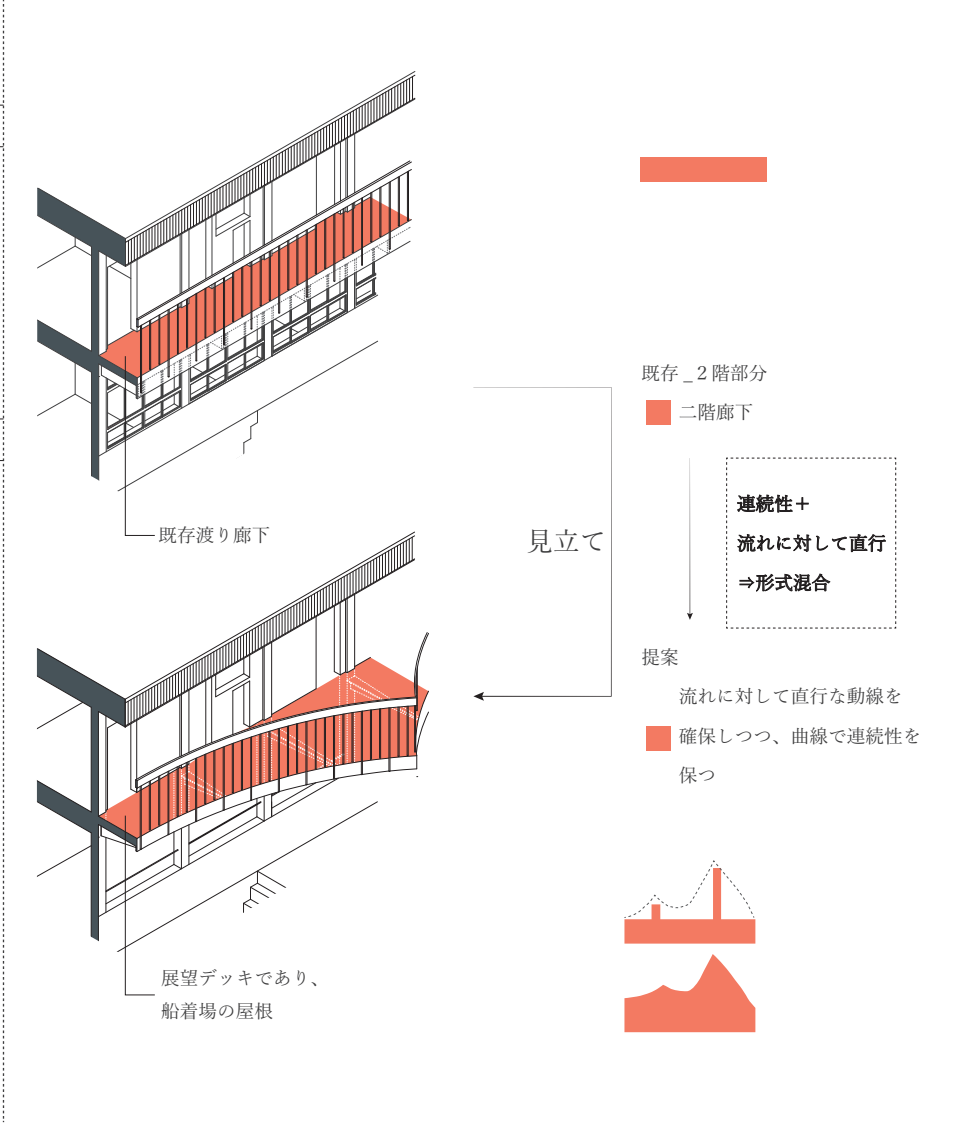
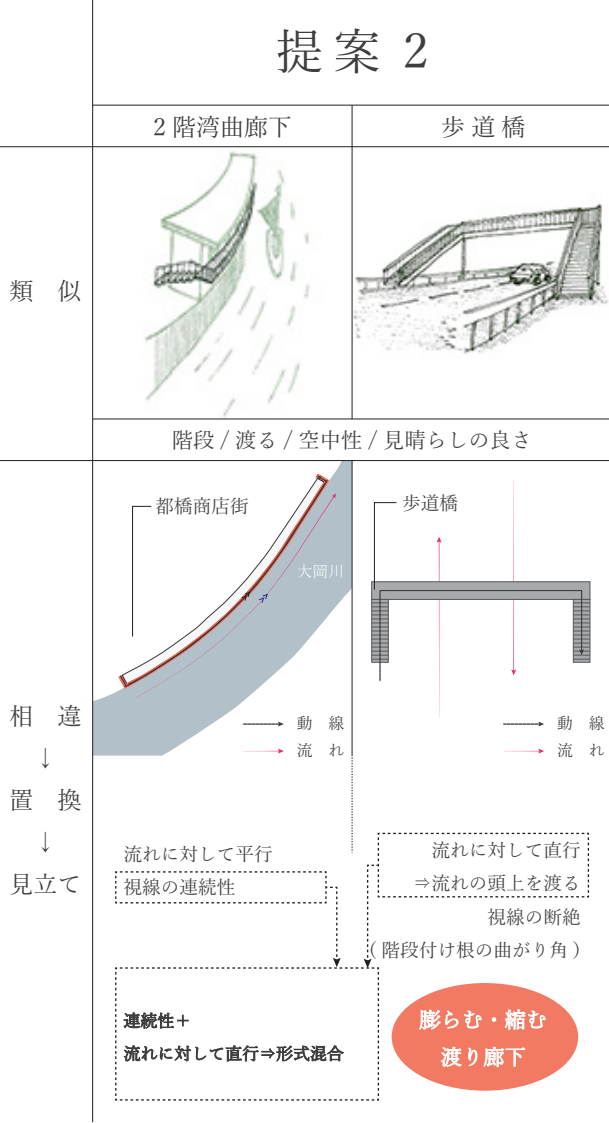
地形の窪み

都橋商店街 らしさ標本



パッチワークなファサード

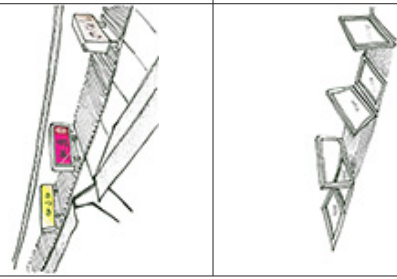




提案 4

類似

2階看板 両開き窓



宙吊り / 薄さ / 大きさ / フレームがあること / 連続性

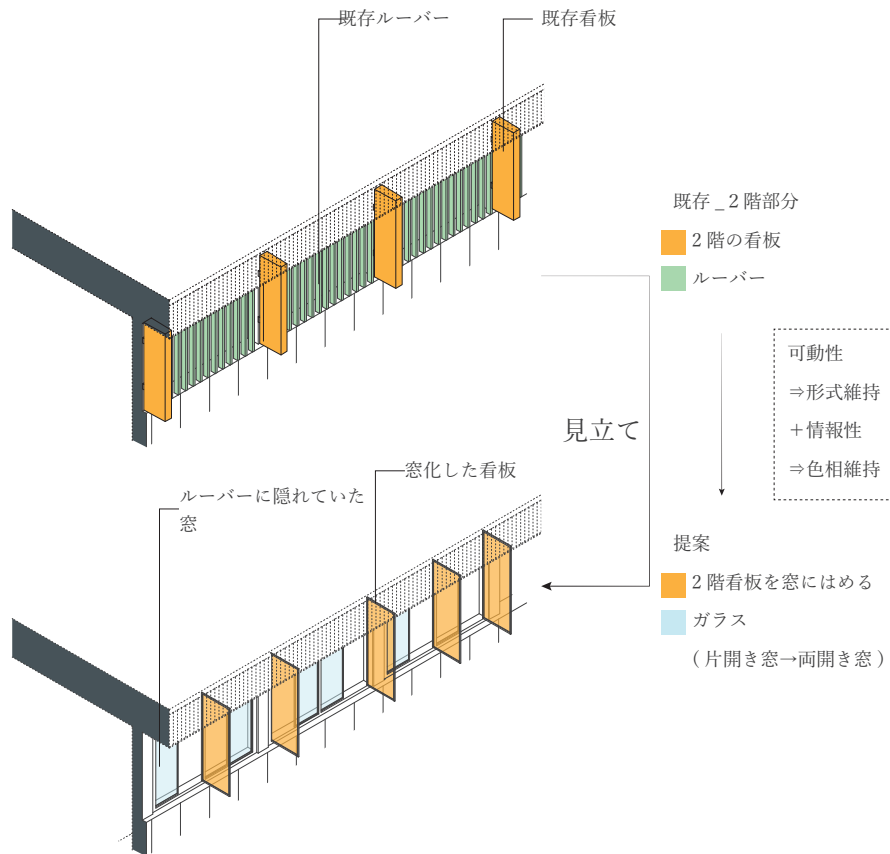
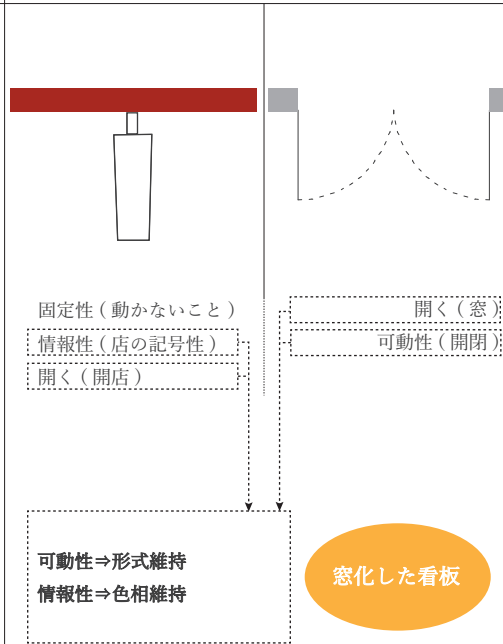
相違

↓

置換

↓

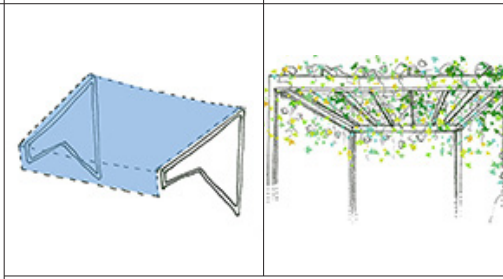
見立て



提案 5

類似

店頭屋根 パーゴラ



屋根 / 骨組があること / 軽やかさ

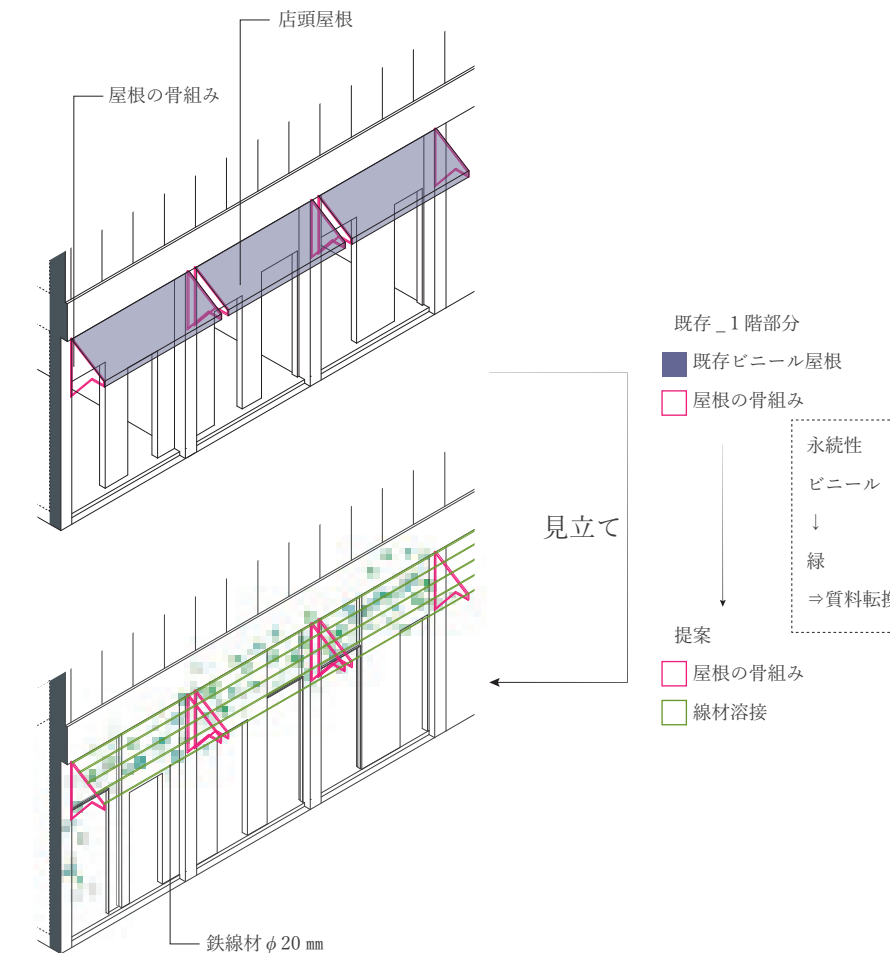
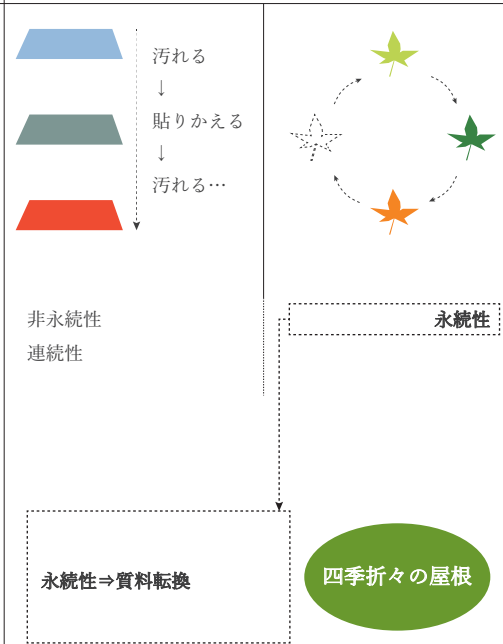
相違

↓

置換

↓

見立て





都橋商店街を観察していくと、建築を構成する要素各々が我々の日頃見慣れた風景や経験したことがある都市の構造物とすりかえられた。

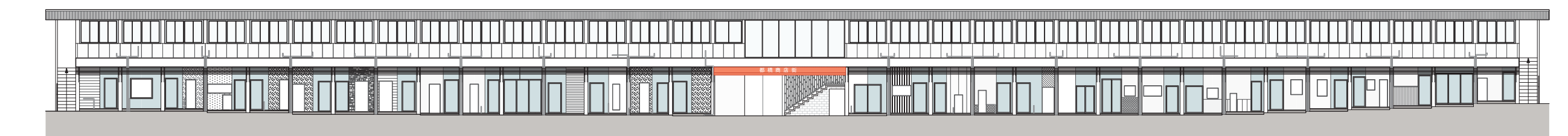
一見我々と距離があるように思える奇形建築が、経験したことがある風景や構造物を介し見立てることで、我々と近いものになりうる。そしてこの見立ての手法が、奇形建築の可能性を思考する糸口としてのフレームになることを期待する。



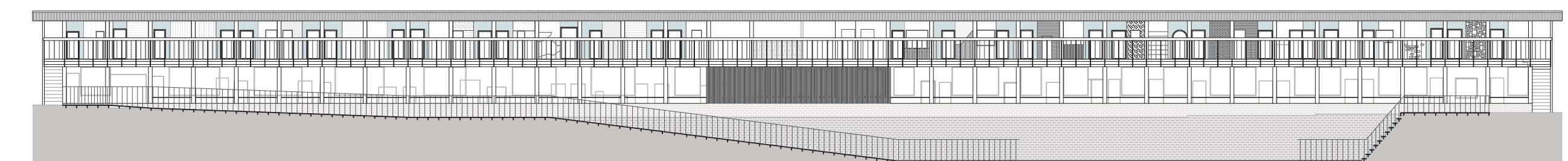
1 F 平面図 _1/300



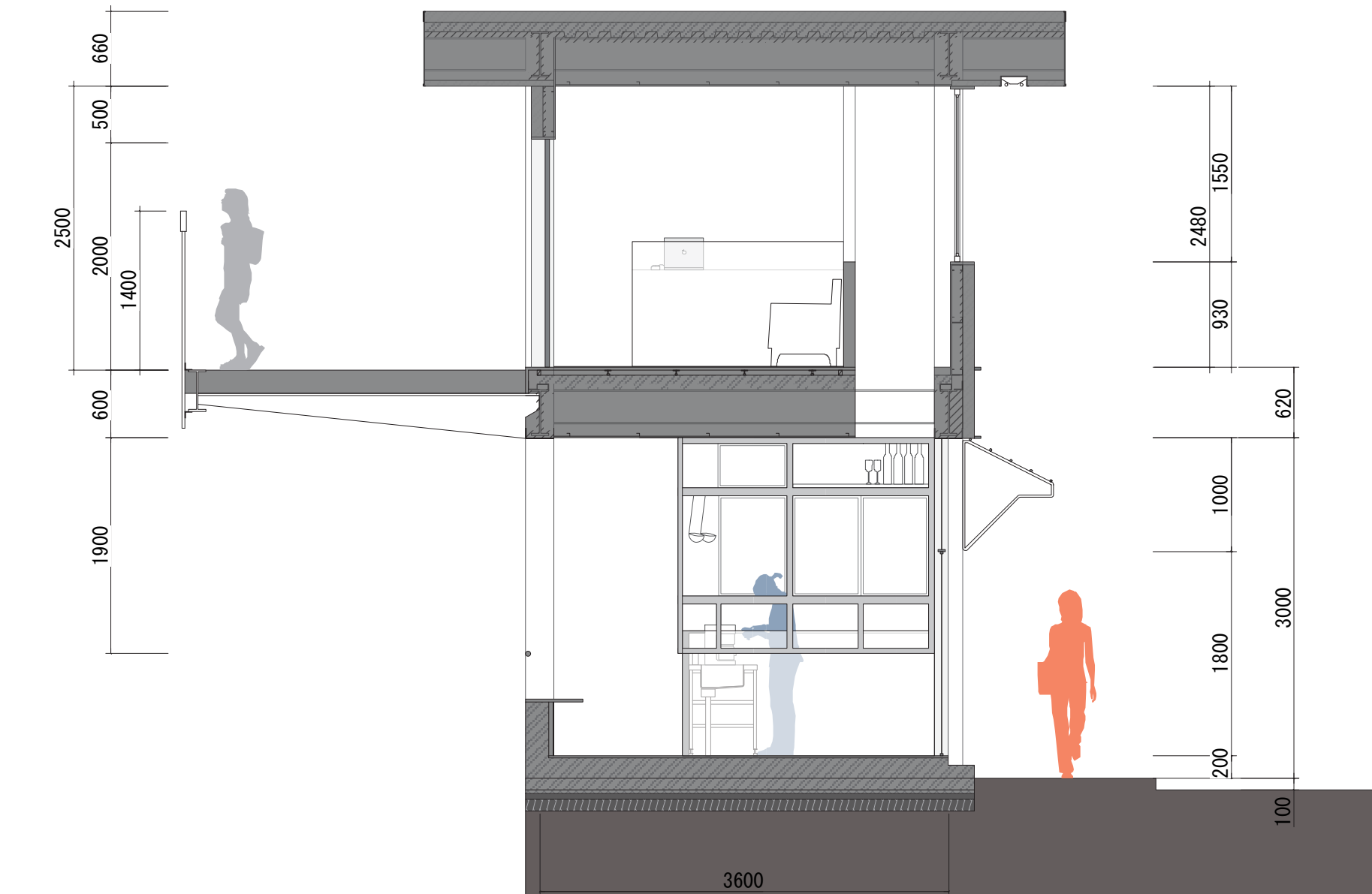
2 F 平面図 _1/300



道路側立面図 _1/300



川側立面図 _1/300



短手断面図 _1/50